

海辺の自然再生・高校生サミット

2025

in
よこすか

11月1日 土

- 9:00 開会式
- 9:25 基調講演
澁澤壽一氏（NPO法人共存の森ネットワーク理事長）
「人は自然の一部である」～人と自然との共生とは～
- 10:05 休憩
- 10:15 高校生発表①②(2校)＋質疑応答・コメント
高校生発表③④(2校)＋質疑応答・コメント
高校生発表⑤⑥(2校)＋質疑応答・コメント
- 12:00 休憩
- 13:00 高校生発表⑦⑧(2校)＋質疑応答・コメント
高校生発表⑨⑩(2校)＋質疑応答・コメント
高校生発表⑪⑫(2校)＋質疑応答・コメント
- 14:45 休憩
- 14:55 高校生発表⑬⑭(2校)＋質疑応答・コメント
高校生発表⑮⑯(2校)＋質疑応答・コメント
- 16:05 講評
- 16:20 協力企業・団体の活動紹介
- 16:35 メイン会場プログラム終了
- 16:40 (別会場)ポスターセッション
- 17:45 終了 ※終了後交流会（事前申込制、有料）

高校生サミット発表団体

〔北海道・東北エリア〕

北海道霧多布高等学校／北海道小樽水産高等学校／山形県立加茂水産高等学校／宮城県水産高等学校

〔関東・中部エリア〕

東京都立芝商業高等学校／千葉県立安房高等学校／東海大学付属浦安高等学校・中等部／神奈川県立海洋科学高等学校

〔近畿・中国・四国エリア〕

福井県立若狭高等学校／関西大学北陽高等学校／岡山学芸館高等学校／柳井学園高等学校／愛媛県立宇和島水産高等学校

〔九州エリア〕

福岡工業大学附属城東高等学校／福岡県立山門高等学校／福岡県立新宮高等学校／team長崎シー・クリーン／熊本県立芦北高等学校／エコユースやつしろ／鹿児島県立鹿児島水産高等学校／鹿児島県立古仁屋高等学校

活動アドバイザー

古川 恵太 ふるかわ・けいた NPO法人海辺つくり研究会 理事長

1963年生まれ。早稲田大学大学院建設工学科修了後、運輸省港湾技術研究所（現・国交省国土技術政策総合研究所）、海洋政策研究財団（現・笹川平和財団海洋政策研究所）を経て、2019年よりNPO法人海辺つくり研究会理事長。徳島大学客員教授。専門は沿岸生態系の保全・再生・創出、沿岸域総合管理、市民科学の推進等。

木村 尚 きむら・たかし NPO法人海辺つくり研究会 理事・事務局長

1956年生まれ。東海大学海洋学部卒業。NPO法人海辺つくり研究会理事・事務局長の他、東京湾を子どもたちが泳げる豊かで美しい海にしたいと考え、東京湾の環境やまちづくりに関連する多数の市民活動にも協力している。主な著書は『都会の里海・東京湾』、『森里川海をつなぐ自然再生』（共著）等。現在、日本テレビ系列「ザ！鉄腕！DASH!!-DASH海岸-」にレギュラー出演中。

岩井 克巳 いわい・かつみ NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 専務理事

1965年生まれ。東海大学海洋学部卒業、(株)MACS代表取締役。阪南市を中心とした大阪府南部の泉州地域で、アマモ場再生を核とした海洋教育、カキ小屋を核とした浜の活力再生を指導・実践。NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事の他、大阪湾見守りネット理事、NPO法人海辺つくり研究会監事を務める。

11月2日 日

- 9:00 2日目オープニング
- 9:05 海と暮らしを支える現場から～漁業者の声～
①全国漁業協同組合青年部連絡協議会 顧問 川畑友和氏
②兵庫漁業協同組合 理事 糸谷謙一氏
③全国漁業協同組合青年部連絡協議会 理事・佐賀玄海漁協 青壮年部 部長 袈裟丸彰蔵氏
④三和漁業協同組合城ヶ島支所 支所長 石橋英樹氏
- 10:05 休憩
- 10:15 高校生発表⑰⑱(2校)＋質疑応答・コメント
高校生発表⑲⑳(2校)＋質疑応答・コメント
高校生発表㉑(1校)＋コメント
- 11:40 講評
- 11:50 休憩
- 13:00 分科会
- 15:00 休憩
- 15:10 高校生円卓会議
- 16:30 協力企業・団体の活動紹介
- 16:45 閉会式
- 16:50 (別会場)ポスターセッション
- 17:45 終了

録画配信あり
後日



海辺の自然再生・高校生サミット

2025

in
よこすか

11月1日 土～2日 日

横須賀市立横須賀総合高等学校SEAホール

〒239-0831 神奈川県横須賀市久里浜 6-1-1

日本各地の海辺には、砂泥に生息する海草によって形成されるアマモ場や、岩場の藻場、干潟などがあり、多様な生物の産卵や稚仔魚の生育の場として、また地域の生業の場として、さらには沿岸の防災にも重要な役割を果たしてきました。しかし、経済成長に伴う沿岸海域の開発などにより、こうした海辺は急速に失われました。近年では、各地で海辺の自然再生活動が行われるようになりましたが、今後もさらなる活動の推進が必要です。また、こうした場の再生には、その土地の生態系、それを取り巻く自然条件や社会条件などに配慮し、統合的かつ早急に取り組むことが重要です。本サミットは、多様な視点から自主的に海辺の自然再生に取り組む高校生が、日ごろの活動や研究成果を発表し、意見交換を行う場です。積極的な交流によって、活動や研究の大切さを再認識するとともに、お互いの取組みを比較することで、新たな知恵やアイデアが生まれることを期待しています。さらに、多くの方々のご理解とご支援・協働によって、そうしたアイデアが実践されていくこと、そしてその努力と成果を国内外へ発信していくことを目指します。

活動
アドバイザー



木村 尚

NPO法人海辺つくり研究会
理事・事務局長



古川 恵太

NPO法人海辺つくり研究会
理事長



岩井 克巳

NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター
専務理事

主催 NPO法人海辺つくり研究会、NPO法人共存の森ネットワーク

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 東京海上日動火災保険株式会社 マルハニチロ株式会社
協賛 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」 株式会社商船三井 東洋建設株式会社 日本製鉄株式会社
一般財団法人みなど総合研究財団 日本テレビ放送網株式会社
後援 三浦半島ブルーカーボン推進会議（横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町）
協力 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

参加申し込みフォームよりお申し込みください。 <https://forms.gle/7BPV46GynGWAKSXk8>

参加費
無 料



【お問い合わせ】 海辺の自然再生・高校生サミット事務局 〒156-0043 東京都世田谷区松原1-11-26 コスモリヴェール松原301
(NPO法人共存の森ネットワーク内) TEL:03-6432-6580 FAX:03-6432-6590 e-mail:mori@kyouzon.org

この活動は、以下の協力企業・団体のご支援により実施します。

【協賛】一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 東京海上日動火災保険株式会社 マルハニチロ株式会社 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」株式会社商船三井 東洋建設株式会社 日本製鉄株式会社 一般財団法人みなど総合研究財団 日本テレビ放送網株式会社 【後援】三浦半島ブルーカーボン推進会議（横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町）【協力】国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

北海道・東北エリア

北海道霧多布高等学校

北海道小樽水産高等学校

山形県立加茂水産高等学校

宮城県水産高等学校

本校は北海道の東、釧路市よりもさらに東に位置しており、昆布をはじめとした漁業が盛んな浜中町唯一の高校です。日々の営みの中でアマモが身近な街であり、2015 年より外部講師の方をお招きし、アマモについての知識を深め、アマモ場のモニタリング活動を行ってきました。2015 年から受け継いできたこの活動の後輩達へと受け継いでいきたいです。

私たちは海洋漁業科は、北海道の日本海側にある小樽市で、小樽水産高校のある小樽港周辺の藻場とスカモ（アマモ）調査活動を行いました。スガモは小樽の代表的な魚であるニシンの産卵に一番活用されている役立つ海藻です。小型船舶からの目視、マリンスポーツ活動の他、ドローンを活用した調査の報告をします。

写真は、7 月のアカモクの苗を粗放培養試験で海底設置している様子です。アカモクの幼体が活着したコンクリートの塊が一つ一つの苗となります。浮かせて設置することで食害を防ぎ、陸上培養で必須な珪藻除去作業からも解放されることを期待しており、9 月に本格的な苗の海底設置を行い、藻場が出来ることを楽しみにしています。

関東・中部エリア

東京都立芝商業高等学校

千葉県立安房高等学校

東海大学付属浦安高等学校・中部部

神奈川県立海洋科学高等学校

こんにちは。東京都立芝商業高等学校ひがた部です。本校は東京都港区にあります。私たちは、学校近くの複合施設ウォーターズ竹芝にある人工の干潟「竹芝干潟」の保全と発展、魅力発信のためにできることを企画立案し、活動をしています。商業高校ビジネス科の学習を活かし、様々な角度から商業高校生ならではのアプローチを行っています。

館山、木更津、鋸南…。この数年で東京湾から次々とアマモが姿を消しつつあります。海辺の生態系の土台としても、温室効果ガスの吸収源としても貴重なアマモ。地域固有の遺伝子を守る域外保全のための栽培方法の確立は急務となりました。私たちは、様々な人々からお力添えを頂きながら、今の私たちにできることに精一杯取り組んでいます。

千葉県浦安市にある「文武両道」を校風とし、高校・大学の一貫教育を特色とした学校です。知・徳・体のバランスがとれた教育を通して「人格の完成」を目指しています。運動部の活動が盛んですが、文化部も地道に活動しています。私たちは主に生物の飼育や採集、浦安市役所の水槽掃除、植物栽培を行っています。昨年、本サミットに参加し刺激を受け、水槽でのアマモ飼育に取り組んでいます。

近畿・中国・四国エリア

福井県立若狭高等学校

関西大学北陽高等学校

岡山学芸館高等学校

柳井学園高等学校

愛媛県立宇和島水産高等学校

本校は、地域資源を活かした探究活動を通じて、課題設定力や科学的思考力を育成します。4 学科体制により多様な進路実現が可能で、地域や大学と連携した先進的な学びが魅力です。探究を通して、私たちは小浜市の漁獲量が減少しているのは、アマモの減少が関係していると考えました。アマモをより強く、発芽しやすくなるようにアマモの発芽率向上と成長の促進をテーマに探究をしています。

本校は、海への理解を深める「海洋教育教材作り」に取り組んでいます。2025 年度の Mission は、海の問題を「自分ごと」にできる楽しい教材『umi のカードゲーム』の完成です。未来へ「豊かな海」をツナグために、一人でも多くの方に「海」を大好きになってもらいたい。そんな想いで取り組んでいます。

医進サイエンスコースでは、里海の聖地と呼ばれる岡山県備前市日生町で、2017 年から海洋学習に取り組んでいます。1 年次にはアマモ場再生活動と聞き書きを、2 年次には牡蠣の養殖体験や課題研究を行っています。今年は、牡蠣殻粉末を海砂に混ぜることで実生ポッド内のアマモ成長にどのような影響が出るのかを研究しています。

高校生サミット
発表団体の紹介

本年度は、北海道から九州まで、全国 21 校・団体の高校生が日ごろの研究や活動成果を発表します。

福岡工業大学附属城東高等学校

福岡県立山門高等学校

福岡県立新宮高等学校

team長崎シー・クリーン

熊本県立芦北高等学校

エコユースやつしろ

鹿児島県立鹿児島水産高等学校

鹿児島県立古仁屋高等学校

私たちは、博多湾の自然をもっと豊かに！をモットーに、博多湾内の生き物を調査し、結果をまとめ図鑑化する活動をしています。さらにアマモ場やアサリなどの資源の再生を目指したり、海のものものの活用を行ったりしています。

山門高校は、ウナギ稚魚を特別採捕して飼育中の生態研究を行うことができる唯一の高校です。淡水中でクスノキ落葉をウナギ水槽に入れることで、水替えの必要のない持続的な水環境が維持されることを発見し、その飼育法でウナギの死亡率を低下させましたが、今年は、海水中でもクスノキ落葉の効果があることを発見しました。

新宮高校では「畏敬・誠実・創造」を校訓とし充実した高校生活を送っています。普通科と理数科があり、理数科では高大連携のセミナーや課題研究など様々な探求活動を行っています。私たち新宮浜班は漂着物の採集や砂浜の測量を実施し、データを残すことで自然保護に向けた取り組みに繋げるため日々活動しています。

当団体は、世界遺産・軍艦島が映える海を守る環境団体です。「伝える・つながる・広がる」を理念に、ビーチクリーンや環境教育、海洋生態系保護、地域の魅力発信を実施。中高生から漁師、行政職員、大学・高校教員など幅広いメンバーで構成。コカ・コーラ環境教育賞最優秀賞を受賞するなど国内外で高く評価されています。

私たちのアマモ場再生活動は、今年で 23 年目を迎えます。これまで多くのアマモ場造成技術を考案し、毎年、5 月～7 月に種子散布、12 月～3 月に苗の移植に取り組んでいます。今年 3 月には、熊本県初となる「ブルークレジット 31t を取得しました。また、昨年からコアモモの造成研究にも取り組んでいます。

「エコユースやつしろ」は、2021 年 7 月に「次世代のためにがんばる会」を母体に設立。浜辺の清掃や不法投棄の視察などを行い、2025 年 3 月に愛称が決まった「生き物溜り」球磨川河口干潟で、毎月「いきもの調査」を実施し、45 種の希少種を確認しました。市民参加を促し、八代海の再生にも力を注いでいます。

私たち鹿児島水産高校は、令和 4 年度から、「おとひめの結プロジェクト」として南さつま市でアマモ場再生を行っています。光合成細菌がアマモに与える影響や、より良い発芽率の研究をしています。今年度は、近隣の高校とも連携し CO₂貯留量の算出等や実験を行うとともに、鹿児島県にアマモ場再生を広める取組を行っています。

古仁屋高等学校まちづくり研究部は、地域の課題についての探究活動を行っています。一昨年、瀬戸内町役場からお声がけいただいたことがきっかけでマングローブの植栽活動のお手伝いをしています。昨年度から植栽環境のモニタリング調査、マングローブの生態に関する研究を地域の方と連携して行っています。